



### 原色版見本 カラー画像として収録

上 初秋の朝 斎藤 豊作(大正3年1月第14巻1号掲載)  
左下 独逸の女 石井 柏亭(大正元年1月第12巻1号掲載)  
右下 清 麗 寺崎 廣業(大正5年1月第16巻1号掲載)



## DVD版 美術新報 ご購入のご案内

2003年8月下旬刊行予定!



検索目録：中島理壽 編・村田真知 協力  
全300冊・総7,782頁 画報社・東西美術社発行  
明治35年～大正9年(カラー画像21点収録)  
DVD 2枚  
ISBN4-8406-0019-8 C3370  
本体予価280,000円

解説・解題等、詳細な文献参照データ掲載!  
『美術新報 総目録 別巻』

<書籍版目録、1983年刊行>  
東珠樹・中島理壽・村田真知編著  
菊倍判 308頁 本体16,000円  
ISBN4-8406-7013-7 C3370

本目録は、1983年に刊行しました書籍版の複製を閲覧するために編集した目録で、DVD版閲覧のための目録ではありません。そのため、閲覧参照先等、DVD版の利用に適さない部分がありますことをご了承下さい。

#### 動作環境

DVD版美術新報はWindows専用です。Macintosh、Unixなどでのご利用はできません。  
また、ご利用のパソコンのスペックは右記以上を必要とします。

対応OS：日本語版Windows 2000/XP  
CPU：Pentium III 800MHz以上  
メモリ：256MB以上  
ハードディスク空き容量：約200MB以上(インストール時)  
ディスプレイ解像度・ビデオカード：1024×768ピクセル以上、フルカラー表示可能なディスプレイ  
DVDドライブ：2倍速以上

### 好評既刊書

- マインクロ版 CD-ROM版近代文学館 編集・刊行 日本近代文学館
- CD-ROM版 太陽 本体100,000円
- 分売集 明治期1/第三集 明治期2/第三集 大正期 各本体100,000円
- 別売 太陽総目次 執筆者索引 各本体100,000円
- マインクロ版 解放 本体100,000円
- 別売 解放総目次 執筆者索引 本体100,000円
- マインクロ版 文章世界 本体100,000円
- 別売 文章世界総目次 執筆者索引 本体100,000円
- マインクロ版 小説 本体100,000円
- 別売 小説総目次 執筆者索引 本体100,000円
- マインクロ版 文壇 本体100,000円
- 別売 文壇総目次 執筆者索引 本体100,000円
- マインクロ版 絵画 本体100,000円
- 別売 絵画総目次 執筆者索引 本体100,000円
- マインクロ版 雑誌 本体100,000円
- 別売 雑誌総目次 執筆者索引 本体100,000円



発行 八木書店 出版部  
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8  
TEL: 03-3291-2961(営業) 03-3291-2969(編集)  
FAX: 03-3291-2962 E-mail: pub@books-yagi.co.jp  
Web: http://www.books-yagi.co.jp/pub

取扱店

日本近代美術史の証言―本格的美術評論誌の嚆矢

# DVD版 美術新報

八木書店 内容見本

明治・大正期の近代画家・文人や展覧会等の動向を探る貴重・詳細な記録  
彙報記事をデータベース化して二万五千件を新たに収録(書籍版目録未収録)

全8,000頁を  
DVD2枚に収録!  
Windows XP対応

検索データ全 万七千件収録!  
西洋近代美術の移植・伝統的 日本美術の再認識を主導した  
貴重資料全三百冊が画像データベースで完全に揃う!

## DVD版 美術新報



### すいせんの言葉

美術界の豊饒な動向を  
リアル・タイムで

高階秀爾



明治三十五年から大正九年まで、十九年間にわたって刊行された『美術新報』は、日本の近代美術の歴史に、いや美術のみならず、文化、社会の多彩な動きに関心を寄せる者にとっては、文字通り宝の山である。黒船来航からほぼ半世紀、幕末、明治維新の動乱期を経て、日本は曲りなりにも何とか西欧先進国と肩を並べることのできる近代国家の体裁を整えつつあった。この新しい世界の胎動を鋭敏に感じ取った青木繁は、明治四十年の時点で、「物質制度上の維新に四十年後れて今や精神修養上の維新が来りつつあるのだ」と語った。実際、美術の分野においても、青木繁の登場する舞台となった白馬会は、西欧の新しい動向を取り入れて洋画界における「新派」と呼ばれたし、伝統的な日本画の世界でも、回倉天心を指導者とする日本美術院の「新しい日本画」の運動が活発に展開されていた。社会制度の面から見てみても、明治四十年にフランスのサロンに範をとった文部省展覧会が創設されて美術家たちに大きな刺激を与え、やがてそれは、二科会をはじめ、官展に対抗する多くの美術団体を生み出すにいたる。

『美術新報』は、まさしく百花繚乱とも言うべきこの時期の美術界の豊饒な動向を多岐にわたってリアル・タイムで知らせてくれる貴重な資料である。多くの珍しい図版を含むその膨大な内容が、今回二枚のDVDに収録された。しかも徹底した検索システムによって、その中身を自由に取り出すことができるという。またこの快挙を言うべきである。研究者、愛好者にとってもこの上ない贈り物が生まれたことを心から喜ばたい。(大原美術館館長・東京大学名誉教授)

### 近代日本の熱気を伝える

辻 惟雄



研究の対象とするにはあまりにも近すぎる。明治、大正の美術を、若い頃の私はどう考えて敬遠していたらみがある。そうでない気がついたときはもう遅く、豊富に残る同時代の資料を読み漁る時間が足りない。  
マインクロに代わるものとして、最近台頭してきたDVD版は、検索の便という点ではまさに画期的である。膨大な近世史関係の資料を効率よく自己の画業ならぬ、学業に収めるために、これにまさる道具はない。あと十年もたないうちに、主要な資料のあらかたは電子化されて、われわれの研究に思いもかけない可能性を与えるだろう。

『美術新報』が、近代日本の美術ジャーナリズムの草分けであり、明治・大正期におけるその推移を知るための道標であることは、うすうす知っていたが、送られてきた創刊号のプリントを読み込んでそのことを改めて痛感した。  
「美術は国家の精髓也、国民の理想也。…」に始まる「発刊の趣旨」には、明治の国家主義が西洋から新たな制度として取り入れた美術の理念が、洋画研究熱とあいまって当時の知識層を鼓舞した、その熱気が伝わってくる。北斎漫画から南画へと貧窮の画業遍歴のうちに西洋画に希望を見出した山本芳翠の経歴談も興味深い。  
『美術新報』DVD版が、全国の図書館、大学研究室、美術館などに常設されることを願ってやまない。(美術雑誌「国聲」主幹・多摩美術大学名誉教授)

